

インタビュー 内装木質化の意義とパネ協の今後の取り組み

パネ協はこのほど、東京大学名誉教授で木材・合板博物館（江東区新木場）の、佐藤雅俊館長からお話をうかがう機会をいただきました。佐藤館長は、「林産工学、建築材料学、林学」がご専門で、建築研究所においては、建築材料（廃棄物の有効利用、木質系材料の適正利用等）や世界各国の木造建築物（主に住宅、木橋等）の構法開発等、大断面木造建築物の開発、建築物の耐久性などの性能等に関する研究等に取り組み、東大では、主に東南アジア地域を対象とした未利用バイオマス資源の地域内における適正利用技術の開発などを実施されました。2022年には木材・合板に関する資料を広く収集・保存・展示する世界で唯一の博物館である木材・合板博物館館長に就任されました。

木材・合板博物館
館長 佐藤 雅俊氏

パネ協の東京ショールームを視察いただいた後のインタビューの中で、佐藤館長は、「パネ協が従来から取り組んでいる内装パネル工法に加え、システム収納、不燃木材、レーザーボード、圧密フローリング材など多様な建築部材を見てパネ協のイメージを一新した。これらのパネ協商品はこれまでのユーザーに加え、国内のハイエンド層や和のテイストに関心の高い海外市場にも十分アピールすると思う。」とコメント。

そのうえで「内装の木質化は、もとよりカーボンニュートラルに貢献するが、木材の風合いや心地良い香りが評価され居住空間に活用されるとともに、調湿作用に着目してクローゼットや美術館などの収蔵庫などに広がりを見せている。また、CLTやMPP（超厚合板）を用いた多様な面材が注目を集めており、パネ協もパネルの概念を広くとらえてこうした建材をラインナップに加えることにより、その可能性がさらに広がるのではないかと期待を寄せていただきました。

佐藤 雅俊 館長のプロフィール

1976年	東京農工大学農学部林産学科卒業。
1978年	東京大学大学院農学系研究林産学専門課程修士課程修了、建築研究所研究員。
1987年	農学博士
1989年	建設省建築研究所主任研究員、国際協力事業団専門家（インドネシア共和国）。
1991年	米国農務省林野局林産研究所客員研究員。
1996年	建設省建築研究所室長。
1998年	東京大学大学院農学生命科学研究科助教授。
2010年	東京大学大学院農学生命科学研究科教授。
2017年	定年退職、東京大学名誉教授。
2022年	木材・合板博物館館長。

パネ協事務局人事

6月26日付けで、常務理事の今井淳が退任し、事業本部長の仙田誠が常務理事に、東日本支所長の大嶽知久が理事に、それぞれ選任されました。

プロジェクト紹介 断熱内窓 マドアーシュ 集合住宅空き家改修工事（宮城県）

宮城県の集合住宅空き家改修工事において、パネ協の断熱内窓「マドアーシュ」が採用され、2025年6月に設置工事が完了いたしました。

「マドアーシュ」は、省エネリフォームの際に、既存の窓に後付施工することで断熱性能が向上し、冬も夏も快適な空間を実現でき、冷暖房コストの削減にもつながります。今回は内窓枠の見込み寸法わずか66mmで設置可能な「66型」が使われています。

「66型」以外にも、より高い断熱性有するペアガラス専用の「80型」、内窓枠と額縁が一体型の「α」を取りそろえ、リフォームだけでなく新築時の内窓としてもご利用いただけます。

パネ協は、内窓設置と併せて「窓周辺の壁断熱改修工事」にも対応しています。マドアーシュの設置と同時に実施することで、居室の断熱性能がさらに向上します。

また、「マドアーシュ」は高い遮音性を有しており、騒々しい街角の騒音レベルを夜間の戸建て住宅地の静かさまで低減します。さらに、結露対策や防犯にも効果を発揮します。



施工後

トピックス 日本総合住生活株(JS)の木材活用改修検討業務に参画

パネ協は2024年7月から11月において、日本総合住生活株式会社(JS)の実施する「集合住宅における木材を活用した改修検討業務」に参画する機会をいただき、同社の技術開発等の拠点「スクエアJS」（さいたま市）のモデル住戸改修において、間伐材を利用した桧台形集成材が採用されました。

具体的には、玄関ホール、居間、台所、寝室等の壁、テーブル、椅子に約0.5㎡使用されています。

なお、日本総合住生活株式会社(JS)は、1961年の設立以降、わが国における「集合住宅管理のパイオニア」として約90万戸に及ぶ管理実績を有し、集合住宅に関する総合的なノウハウを有する企業の一つです。



キッチン壁まわり・上部棚



プロジェクト紹介 京成電鉄青砥駅リニューアル工事(東京都葛飾区)

このほど京成電鉄青砥駅のリニューアル工事が竣工し、2025年3月26日に、青木克徳葛飾区長、持永秀毅京成電鉄株式会社取締役常務執行役員等の出席のもと「お披露目式典」が開催されました。

本工事は、京成電鉄長期経営計画Dプランの重点施策である「エコロジカルなまちづくりの推進」の一環として、青砥駅を地球環境に配慮したサステナブルな駅としてリニューアルしたものです。

改札口を出てすぐのコンコースの天井仕上材料としてパネ協の「レーザーボード」をご採用いただきました。

「レーザーボード」は、集成材、合板、アルミ、スチールなど様々な素材を高次元レーザー加工技術で高精度切削し、天井材や壁材としてご提供するものです。

多様なデザインパターンの加工が可能ですが、今回はラジアータパインに胡麻柄、麻の葉等計5種類の組み合わせの加工を施しました。



所在地: 東京都葛飾区青戸
設計: 株式会社アトリエユンゾン
施工: 東急建設株式会社
竣工: 2025年3月

パネ協事務局新体制

2025年4月着任

名古屋支所 静岡営業所

★担当地域: 静岡県

所長 三輪 徹

(名古屋支所

設計営業部長兼務)



当営業所は公営・公的住宅の内装パネル工法による工事をはじめ、学校等の公的施設、マンション・ホテル等の民間事業において木工事・建具工事・家具工事・床工事・システム収納工事など幅広い事業を展開しています。

また脱炭素社会の実現に向けたカーボンニュートラル対策が加速していく中で、地場産材などの木材利用の促進と省エネ対策にも貢献できるよう積極的に取り組んでまいります。

大阪支所 京滋営業所

★担当地域: 京都府 滋賀県

所長 宗末 徹也

(大阪支所副支所長兼務)



本営業所の担当地域である京都府は「京都府産材認証制度」、滋賀県は「びわこ材産地証明制度」によりそれぞれ地域産材の活用を推進しています。

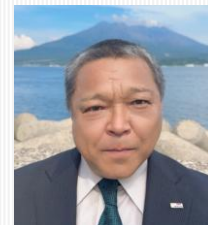
パネ協においても、公営住宅や小中学校などの公共案件、マンションなどの民間案件を問わずこうしたお客様のご要請にこたえつつ、内装木質化に積極的に取り組んでまいります。

西日本支所 鹿児島営業所

★担当地域: 鹿児島県

所長

神戸 裕司



本営業所は1978年の開設以来半世紀近く、鹿児島において公営住宅パネル工法、公的施設の木製パーテーション工事・木工事、民間マンションの木工事などに取組んでまいりました。また、「認証かごしま材制度」の認可を受けている地元認証工場のご協力をいただきながら県産材利用なども進めています。

今後も、社会経済の変化に伴う事業主体の多様なご要望にお応えできるように努力してまいります。

短信 九州防災・災害対策EXPOに「避難所用パーテーション」を出展

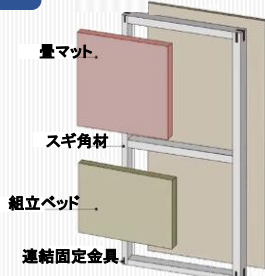
九州防災・災害対策EXPO
出展 パネ協ブース



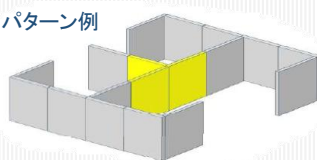
▼平時は壁面に固定



避難所用
パーテーション



▼組立パターン例



2025年6月4日から5日の2日間、「九州防災・災害対策EXPO」が九州イノベーションWEEK実行委員会の主催により、マリンメッセ福岡A館にて開催されました。本展示会では、九州圏の自治体や企業が、防災・災害対策を支援する多様な商品・サービスを出展し、多くの来場者で賑わいました。

パネ協のブースでは、「避難所用パーテーション」を展示いたしました。本製品は、災害時に体育館などの避難所でプライバシーを確保し、避難所生活の環境を向上させることを目的とした間仕切りパネルです。本製品の特徴は以下の通りです。

平時には壁面に金具で固定可能: 特別な収納スペースが不要で、省スペース化を実現。展示会や選挙投票所など、様々な場面で間仕切りとして活用できます。

パネル内部に防災備品を収納可能: テーブル、棚、畳マットや組み立てベッドなどを収納でき、特に高齢者、障害者、授乳が必要な女性など、配慮が必要な方向けの専用ブースとして最適です。

現在、本製品の一層の改善に向けて鋭意試作・検討を進めています。

PANEKYO ニュースレター

編集・発行 日本住宅パネル工業協同組合

113-0021 東京都文京区本駒込 6-15-7

Phone : 03-3945-2311 <http://www.panekyo.or.jp/>